

## 留学生生活を終えて

国際文化学科 2年 中川 菜緒

中国コースは、8月30日から1月9日までの約4ヵ月間、北京師範大学に留学していました。今、この留学生生活を振り返ってみると、4ヵ月という期間はとても濃厚で貴重な時間でした。留学には元々興味を持っていましたが、正直、初めの方は行こうか迷っていました。けれど、先生や先輩方から色々な話を聞いたり、留学報告書を読んだりして、中国語や文化・歴史をもっと知りたくなり、何よりも留学に行けるチャンスは今しかないと思い、行く事を決めました。

北京空港に着いて、最初は「日本の空港とあまり変わらないな」と思っていたのですが、中国語で書かれている表記を見て、「中国に来たんだな」と徐々に実感が湧きました。飛行機が遅れてしまい、着いたのが夜中の1時くらいだったのですが、そこからバスに乗って北京師範大学の学生寮に向かいました。バスの車窓から見えた景色は、建物が多かったり、夜中にも関わらずたくさんの車が走っていて、都会だなと思いました。夜とはいえども、日本とはどこか風景が違っているように感じました。

次の日には、大学の敷地内を見て回りました。北京師範大学は、教室や学生寮・食堂が何ヵ所もあります。他にも、大学内なのにスーパーやコンビニがあったりと、この大学の規模の大きさと留学生や本科生の人数の多さを実感しました。その後は、入学式やクラス分けの発表があったりと、授業が始まるまでの一週間が、留学生活の中で1番慌ただしかったように思えます。

3日目には、クラス分けのテストがありました。筆記と口頭試験があったのですが、筆記の方は、リスニング・文の正誤判断・短い文章の読解・簡単な文章を書く問題が出ました。しかし、文は、見たこともない単語や文法が使われていたり、リスニングも、試験が始まっているのに最初の方は気づかなかったり、始まってもCDから流れてくる中国語が早すぎて理解できず、問題が解けませんでした。口頭試験の時も、文章を読むことはできましたが、試験官の先生が出す問題に答えることが全然できませんでした。日本にいる時



に、もっと勉強すればよかったと思うと同時に、この先、自分はこの大学でやっていけるのかと不安に感じました。

そして、4日後に授業が始まりました。私のクラスは、全員で18人いたのですが、韓国やイギリス、アイルランド、モンゴルなど色々な国から留学に来ていました。このメンバーで、精読・会話・リスニングの授業を受けます。授業

は、基本はほとんど中国語で行われ、パワーポイントを使って進められました。しかし、授業のスピードがとても速く、パワーポイントに表示されている文をメモするばかりで、先生の話聞き逃がしたり、質問をされても全く分からず、先生がどういう事を言っているのかがよく理解できなくて、落ち込んだ時期もありました。そんな時に、ある先生が「最初は聞き取れなくても大丈夫だよ。心配しないで。」と声をかけてくれたり、国情のみんなに励ましてもらって、「頑張ろう！」という気持ちになりました。その後、メモを取るばかりでなく、先生の話をよく聞くようにしたら、ちょっとずつですが、中国語が聞き取れるようになっていきました。また、宿題で作文を出されることがあり、最初は、中国語でどういう風に表現すればいいかわからず、一つの文を作るのにも時間がかかってしまい、完成させるのにも苦労していましたが、授業を受けて単語をたくさん覚えていくうちに、段々と文章を書くスピードも上がっていきました。ですが、私は会話が苦手で、先生やクラスメートに話しかけられる事もあったのですが、簡単な単語さえも出てこず、うなづくばかりで、コミュニケーションがあまり取れていませんでした。日本にいる時は、日本語が通じるのが当たり前で、言葉に不自由することがありませんでした。しかし、いざ中国に行くと、分かってはいましたが日本語が通じない。会話の内容はだいたい分かっているのに、思っていることを上手く表現できない…。と言葉の壁と伝えることの難しさを感じていました。みんなは中国語で会話しているのに、自分は上手にならないと悩んでいたちょうどその時に、同じクラスメートに、「一緒にご飯に行かない？」と誘われました。私は、「会話が成立しないかもしれないし、ちょっとな。」と少しためらいましたが、それ以上に「このままじゃ、しゃべれないままだ。それに、会話を上達させるにはいい機会だな。」と思い、行くことにしました。その人は韓国人で、日本語も少し話すことができる人でした。私が聞き取れなかったり、話せなかったりしたら、彼女はゆっくり中国語を話してくれたり、簡単な英語や日本語の単語を使って話したり、筆談をしたりしながら意思疎通をとっていきました。最初は緊張してしまい、上手く話せるかとか、何を話せばいいのかなと思っていましたが、日本や韓国の話、自分自身の話などの話題で盛り上がり、とても楽しいひと時を過ごせました。私は、元々話すのが苦手で、特に中国語で人と話す時には、単語・文法は合っているのか？これで伝わるのかな？と思いがちで、他の人と話すことにちょっと抵抗がありました。けれど、彼女と食事をして、様々な影響を受け、積極的になってもっと会話が上手になりたいと思うようになりました。それからは、授業で分からないところがあったら先生に質問したり、出かける機会を増やして、中国の人と関わるようにしました。ご飯を頼む時は、メニュー表を指で



「このままじゃ、しゃべれないままだ。それに、会話を上達させるにはいい機会だな。」と思い、行くことにしました。その人は韓国人で、日本語も少し話すことができる人でした。私が聞き取れなかったり、話せなかったりしたら、彼女はゆっくり中国語を話してくれたり、簡単な英語や日本語の単語を使って話したり、筆談をしたりしながら意思疎通をとっていきました。最初は緊張してしまい、上手く話せるかとか、何を話せばいいのかなと思っていましたが、日本や韓国の話、自分自身の話などの話題で盛り上がり、とても楽しいひと時を過ごせました。私は、元々話すのが苦手で、特に中国語で人と話す時には、単語・文法は合っているのか？これで伝わるのかな？と思いがちで、他の人と話すことにちょっと抵抗がありました。けれど、彼女と食事をして、様々な影響を受け、積極的になってもっと会話が上手になりたいと思うようになりました。それからは、授業で分からないところがあったら先生に質問したり、出かける機会を増やして、中国の人と関わるようにしました。ご飯を頼む時は、メニュー表を指で

ささずに中国語で注文するようにしたり、また、お店で店員さんとちょっとした話をしてみたりと、ささいなことから始めてみました。言葉が通じなかったことも多々あり、困ったこともありました。通じた時はとても嬉しかったです。会話をする際には、間違っても失敗しても、自ら話さなければ相手には伝わらない。とにかく言葉を口に出す。そして、人と話すことが大切だと実感しました。



休日には、地下鉄やバスを利用してどこかに出かけたり、ご飯を食べに行ったりしていました。京劇や見に行ったり、水族館や動物園・国家博物館に行ったりと、とにかく色々な場所に行きましたが、世界遺産を初めて見たことが一番印象に残っています。北京には、世界遺産がいくつもあり、私は、頤和園・故宮博物院・天安門・万里の長城を見に行きました。頤和園は、中国最大の古代皇室の庭園で、多くの建築物があり、蘇州街・十七孔橋・長廊などを見ましたが、とにかく敷地が広がりました。仁寿殿や樂寿堂などの建物は、外装は赤・緑・青をメインに塗装され、龍などの柄が描かれており、内装は壁や天井に絵が描かれていたり、とてもきめ細やかなつくりになっていました。また、昆明湖の周辺や橋を渡って歩いているときの景色がとても良かったです。故宮博物院は、かつては紫禁城という名前で、皇帝が仕事を行っていたり、皇后と共に暮らしていたとされていて、太和門・太和殿・中和殿といった外朝や、乾清門・乾清宮・神武門といった内廷を見学しました。頤和園とは違い、外装が主に朱色で塗られていたり、中には、当時使われていた家具が置かれてあったりと、皇帝がどのような生活を送っていたか、その歴史を知ることができました。天安門は、毛沢東の肖像画が飾られており、実際に人々が写真を撮っていく様子を見て、毛沢東がいかに国民達に尊敬されているかを改めて感じました。万里の長城に行った時は、天気が良く、空気も澄んでおり、そこから見た景色は、緑色の山と、青い空のコントラストがはっきりしていて、とても綺麗でいい眺めでした。1日では回りきれませんが、行って見たかったので、行くことができ本当に良かったと思っています。また、買い物に行く時には、前門に行くことが多かったですが、他にも南鑼鼓巷・什刹海にも行きました。どこもレトロな建物のお店が多く、おしゃれな雑貨もあります。特に、冬場の什刹海は、夜になるとイルミネーションがあり、見て歩いているだけでも楽しめました。他には、本場の中国料理も堪能しました。包子・餃子・炒飯・小籠包など様々な食べ物を味わうことができましたが、中でも、初めて北京ダックを食べられたことが思い出です。皮がパリパリしていて、中がジューシーでとても美味しかったです。

日本のメディアは、中国の事に関してマイナスの面を報道することが多く、そのせいで日本人も中国に対してあまり良いイメージを持っていないような気がします。ですが、それはほんの一部分にしか焦点を当てていないような気がします。私も留学に行く前、中国

の人達は日本人に冷たいのかなと思っていましたが、実際は温かく接してくれる事が多く、行ってみなければ分からなかった事がたくさんありました。中国で過ごしていると、日々色々なことを発見したり、刺激をもらうことが多々ありました。留学して2週間がたった頃、北京師範大学の日本語学科の学生さん達と交流する機会がありました。その時はまだ全然中国語がしゃべれなかったので、どうコミュニケーションをとればいいのかろうと思っていましたが、日本語学科の人達は、日本語や英語を使って話をしてくれました。言語を学び始めたきっかけとして、アイドルやアニメ・マンガを見て、興味を持ったと聞き、日本の文化が中国にも広がっているのだなと感ずることができて、とても嬉しかったです。他には、大学内で友達と話していると、日本のことに興味を持っている人から声をかけられて連絡先を交換したりしました。初めは正直驚いたし、警戒心もありました。けれど、日本語を教えてほしい、日本について学びたいということで声をかけたと聞き、何かを知りたいという好奇心を持っているのは素晴らしいと思いました。色々なことに興味を持ち、知るということはとても大事だと改めて実感しました。この気持ちを忘れず、これからも様々な事を学んでいこうと思います。